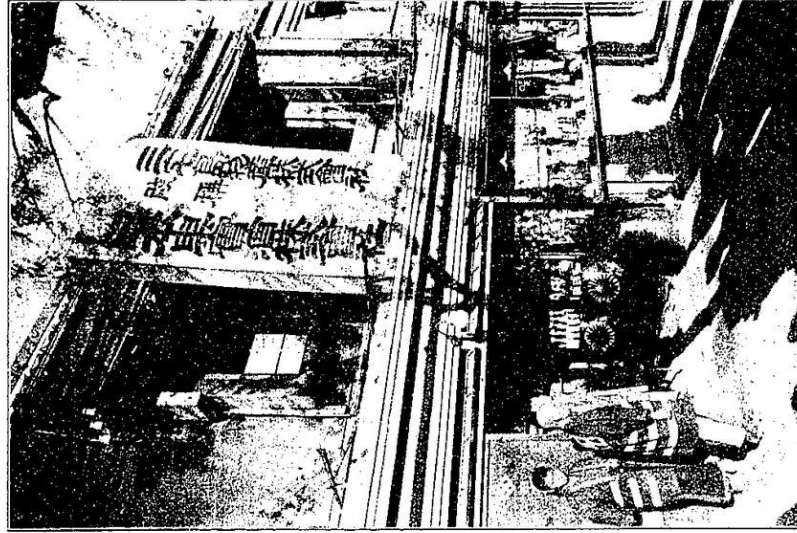


TEL: 620-XXXX  
TOSH

町 亮 蠟 通 町 形 人 電 橋 本 日 市 日 京 東  
社 會 式 株 酒 實 果 本 日



店 舖 の 圖

FRUIT WINES.

NIHON FRUIT WINE CO. LTD.;

Nichome Kakigumacho, Ninyochodori, Nihonbashi, Tokio.  
Long Distance Telephone: No. 620 Yamanawa.

日本橋區蠟燭町二丁目十五番地

旭  
イ  
チ  
ゴ  
酒

日本果實酒株式會社

電話 花 六三〇番  
電 路 號 一三〇

唱つて曰く「鯉の住む淵は探らて覗きごと、ア、鯉の住む深淵を覗くは覗掻等の知る處に非ず、然り此の確信あり先見あつて能く初二念を貫徹し斯業界裡々の名を博する者を社長間宮勝三郎氏とす、之より先き氏が酒精醸造の志を抱いて三宅島に渡りたるは、いさは十年の昔にして、當時の意旨に薩摩芋より酒精を醸さんとするに在りき、然るに時は幸か不幸か薩摩芋不作の年に會し却て粟盃子に着目するの事とはなりたり以爲らく斯くばかりなる満山の瑠璃の光空しく磨るゝの程心惜しと此に利用の法を思出幸にも矢部學士の著西洋酒醸造編を携へ來りたるを機とし、之に就て工夫を凝らし三十一年八月苦心のいらむ酒を携へて矢部學士を訪ひ之を進めて分析を乞ふ、美味ならんと思ひ來しは愚、學士取て見て腐敗せりとし醜酔せずと卻けぬ、是に於てか更に學士に謀り幾翌年の初秋重ねて新智識を抱いて三宅島に渡る而かも爾來の工夫又も効なく次で三十三年は如何なる年ぞ素志漸く成らんとせしに際し又もや時ならぬ人事の大變あり、是れより財業大に困じ進むも能はず退くも得ず、悄然默思する時郷黨隣に彼に告げて曰く酒精醸造の事に断念せば君が家政の爲に謀る可しと、間宮氏容易に聞かず、財政彌々窮して而かも工夫は彌々練れ此に幸に資を知友に得て一鞭駿馬に力を鼓し三

果 實 酒

十四年の中頃此に始めて内務省の試験を受け宿志漸く成る三十五年の新天地に其の新事業は更に大に旗幟を明にして天下に現はれたり

此れ本會社々長間宮勝三郎君のイチゴ酒製造に於ける苦心談の一節なり、聞く精神一到何事か成らざらんと、今や君の苦心は其の果を結び、同志相諮りて資本金三十萬圓の株式會社は組織せられ、昨年四月よりイチゴ酒の外、林檎酒をも製造し、盛んに其の販賣を開始せしに、兩酒共獨り内地人の嗜好に適するのみならず、布陸及び南洋諸島其他臺灣方面へ輸出の好況を告げ、營業の開始日未だ遠しと雖も、業務の隆盛なる聲くに進へたり、本會社は今後益々進んで山桃、梨、枇杷、櫻實其他各種の果實酒製造を期せり、前途の好望推して知るべきなり、試に本會社の役員を紹介すれば左の如し

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 社 長       | 間 宮 勝 三 郎 |
| 專 務 取 締 役 | 大 川 源 四 郎 |
| 取 締 役     | 島 田 保 作   |
| 同         | 金 子 茂 實   |
| 同         | 今 井 仙 三 郎 |
| 同         | 別 所 龍 之 助 |
| 同         | 新 井 福 太 郎 |

旭章林檎酒。旭章葎黍子酒者。日本果實酒有限公司醸之。此發明依間宮勝三郎君々研究。自己亥至壬寅。矢失巨資。積蹙。遂矢部理學士之高意。遂收其功。社會稱讚。不惜功可錄也。

四九